

# 対処すべき課題

有価証券報告書に記載されている **2016年度版**  
原発関連の「対処すべき課題」 (沖縄電力除く)

## 北海道電力

ともに輝く明日のために。 (コーポレートスローガン)

**泊発電所の再稼働**により経営の安定化を図ったうえで  
電気料金の値下げを行い、  
さらなる価格競争力の向上を図っていく。

## 東北電力

より、そう、ちから (コーポレートスローガン)

原子力発電については、(中略)  
継続的な業務品質の向上を目指していく。  
また、適切な情報発信と双方向のコミュニケーション  
などを通じて、地域のみなさまからご信頼いただける  
よう努めていく。

## 北陸電力

暮らしに夢をともしたい (コーポレートスローガン)

**志賀原子力発電所の早期再稼働**が最重要課題である。  
敷地内断層に関し、再開された適合性確認審査に的確  
に対応するとともに、安全性向上工事を着実に進め、  
地域の皆さまのご理解のもと、  
再稼働を成し遂げる所存である。

## 東京電力

挑戦するエネルギー。 (ブランドスローガン)

**柏崎刈羽原子力発電所の再稼働**に向け、  
安全性向上対策をすすめるとともに、  
新規制基準適合性審査への対応にあたって、  
他の電力会社に協力いただき、  
規制対応向上チームの設置や組織間の情報連携の改善  
に取り組んでいく。

# 中部電力

時代の先へ。ひとりのそばへ。(コーポレートスローガン)

浜岡原子力発電所の安全性を一層高める取り組みを継続的に行い、  
浜岡原子力発電所を引き続き重要な電源として活用していけるよう準備を進めてまいります。

# 関西電力

power with heart (ブランドステートメント)

安全・安定運転を継続していくことで、原子力の安全性への信頼回復や、ベースロード電源としての原子力および原子燃料サイクルの必要性への理解促進に、グループの総力を挙げて取り組む。

# 中国電力

ENERGIA ーあなたとともに、地球とともにー (キーコンセプト)

島根1号機の廃止を考慮すると、島根3号機の早期運転開始はもとより、新規原子力である上関原子力発電所の開発はこれまで以上に重要な経営課題であり、早期に着手できるように、引き続き取り組んでいく。

# 四国電力

しあわせのチカラになりたい (グループビジョン)

伊方発電所3号機は、昨年9月、通常運転を再開し、その後も安定運転を継続している。これにより、電力需給の安定化や経営収支の改善が進み、事業経営の正常化に向けた基盤が整っていくことになる。

# 九州電力

ずっと先まで、明るくしたい (ブランド宣言)

玄海原発3、4号機の日も早い再稼働に向け、全社を挙げて対応していく。

## 最後に一言

各社、とにもかくにも再稼働。経営収支改善のためには再稼働。そして、どこも触れてないのがゴミの問題。(毎年同じことを指摘してる気が。。。) 原発を動かしたら収支が良くなる、というのはそういう「世の中の仕組み」だからです。「世の中の仕組み」は人為的なものですから、いくらでも変化します。一方、核のゴミは想像を絶するほど遠い将来まで確実に残り、生物に悪影響を及ぼし続けます。これは自然法則ですから人間がどうこうできるものではありません。どちらの問題を重視すべきか？は倫理的に答えが出るはずですが、企業は目先の利益を追い求めるものですから、この倫理的答えは企業には出せません。これこそ、国が答えを出すべきところです。「人としてやっていいことなのか？」そこから議論を始めないといけないと思います。

参考資料  
①金融庁 EDINET  
<http://disclosure.edinet-fsa.go.jp>